

モード Mode は語る

中野 香織

スーツの聖地、英ロンドンのサビルロウにハンツマンというテーラーがある。映画「キングスマン」にも登場する老舗である。この名店が厳選して扱うネクタイの中に、京都府丹後地方の「kuska fabric (クスカファブリック)」が作るシルクタイがある。価格は260繻(約4万7000円)とエルメスより高い。

代表の楠泰彦さんは、1936年創業の「楠嘉(くすか)織物」3代目。丹後生まれだが東京の建築会社で働き、サーフィンを楽しむ生活をしてきた。30歳目前に帰省したとき、廃



空気を含ませながら立体的に織り上げる

業寸前の家業を受け継ぐことを決意し2つの改革を進めた。

それまで使っていた量産用の織機

発色鮮やか、世界で販売

「丹後ブルー」のネクタイ

を廃棄。建築会社での経験を生かし、代わりに自動機械の長所も取り入れた手織り織機を自分で組み立てた。糸にストレスを与えず、空気を含ませながら立体的に織り上げられた生地は発色が鮮やか。とりわけ美しい青を「丹後ブルー」と命名した。

地名を入れたのには理由がある。丹後は日本の着物地の60%を生産する産地で、300年の歴史を持ちながら京都・室町の下請けのような地位に甘んじてきた。丹後ブルーを世界で有名にすることで、独立した産地として注目を集めたい考えだ。

次に流通を大胆に単純化した。2010年に「KUSKA」としてブランディングし、複雑な流通過程を経ずとも直接顧客と取引することを可能にした。17年から男性服飾の展示会「ピッティ」に出展し、翌年にハンツマンに注目されて取引が開始。今では世界5か国で販売されている。

工房では若い職人がリズミカルに機を織る。職人の平均年齢は37歳と、丹後の平均(65歳)と比べて若い。「自分の手で織り上げていく過程が楽しい」と女性職人の一人は語る。

工房の壁一面にはサーフィンする丹後の動物たちの青いアートが描かれる。一度よそ者になった視点と異業種の経歴を生かし、日本の伝統工芸が注目される世界の波に乗る。